猿投山

豊田市の北端に位置する猿投山は、人気のハイキングスポットであると同時に、古代から現在に至るまで崇拝されてきた聖なる山でもある。丸みを帯びた山頂（標高 629 メートル）は、ほぼ全方向から見ることができ、方角を知るランドマークであるとともに、周辺の平野部に住む人々にとっては、畏怖と好奇心の対象であったと考えられている。猿投山への信仰がいつから始まったのかは定かではないが、少なくとも 9 世紀頃から猿投山の斜面には神仏習合の神社が存在していた。それらは現在の猿投神社の前身に当たる。猿投神社は南麓の本宮と、それぞれ山の東斜面・西斜面に位置する東宮・西宮からなる大規模な神域である。

週末には多くのハイカーが訪れ、特に春は山腹の桃の木が咲き、秋は紅葉で賑わう山だ。斜面にはスギやヒノキのほか、アカガシ、ヤブツバキ、ツブラジイ、ツガ、ミズメなどが点在している。

登山道は 2 つあり、どちらも猿投神社の本宮から出発する。西側のコースは広沢川に沿って 7 つの滝を見ながら西宮を目指し、山頂に向かうもので、東側のコースは東宮と杉の巨木群を経て、南アルプスを望む尾根に出て山頂に向かうものだ。どちらのコースにも大きな岩が点在しており、船の形をした岩やカエルの形をした岩などがある。1 周 13.3km のコースは約 4 時間半で回れる。

山頂から西・南西方向には、名古屋市街、知多半島、伊勢湾、三河湾などが見える。北側には、旧美濃国、尾張国、三河国の国境に位置することから名づけられた 701m の三国山があり、晴れた日には白山（2,702m）や御嶽山（3,067m）の山頂、南アルプスの山々を見ることができる。